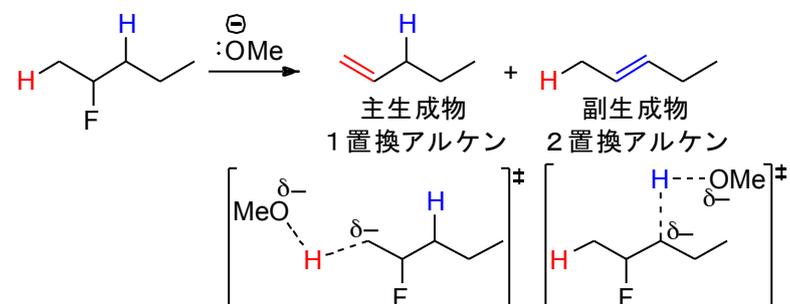
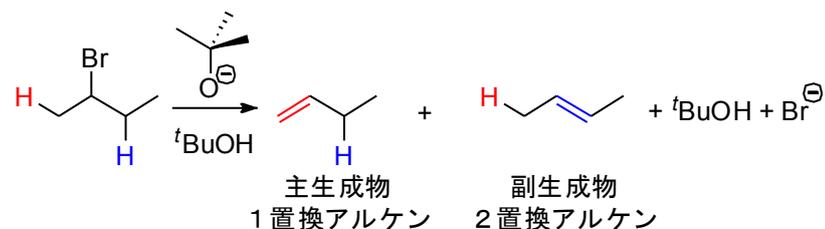
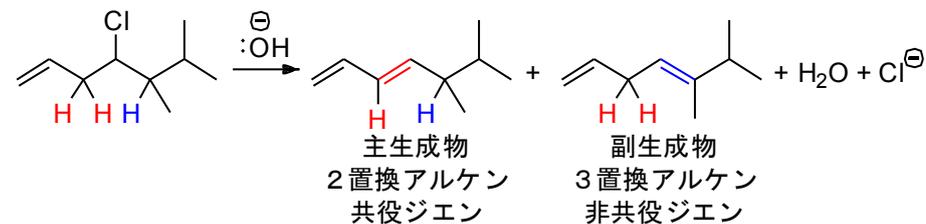


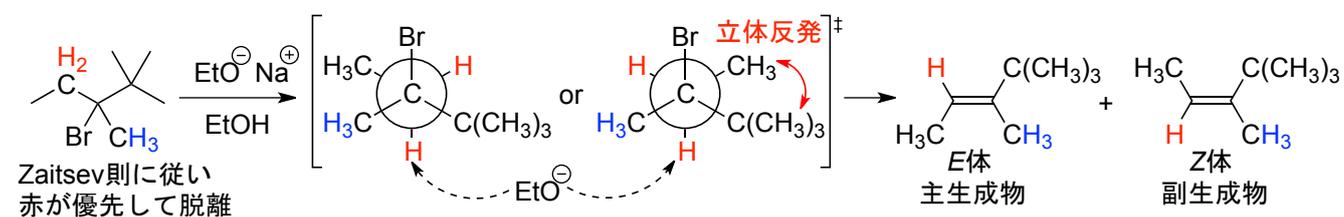
8.1. Zaitsev 則の例外が起こる場合(B 上 438-441)

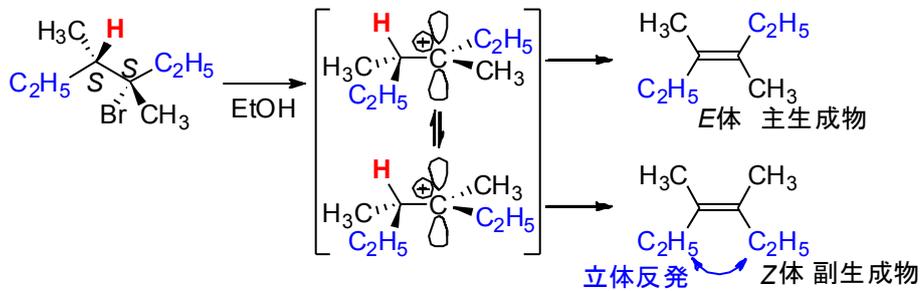
E2 反応では Zaitsev 則に従わないことがある



8.2. E1 反応ではカルボカチオン中間体の転位反応により骨格が変わる(B 上 p445) S_N1(B 上 p406)も参照

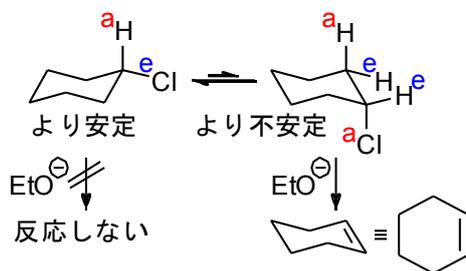
8.3. 脱離反応の立体選択性：ハロゲン化アルキルの立体と生成するアルケンの関係(B 上 448-453)





8.4. 置換シクロヘキサンの特殊性(B 上 453-457)

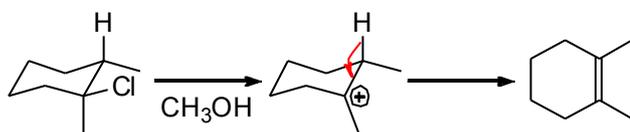
E2 脱離の例



通常脱離基がアキシアルにある異性体は、より不安定な異性体

→

E1 脱離の例



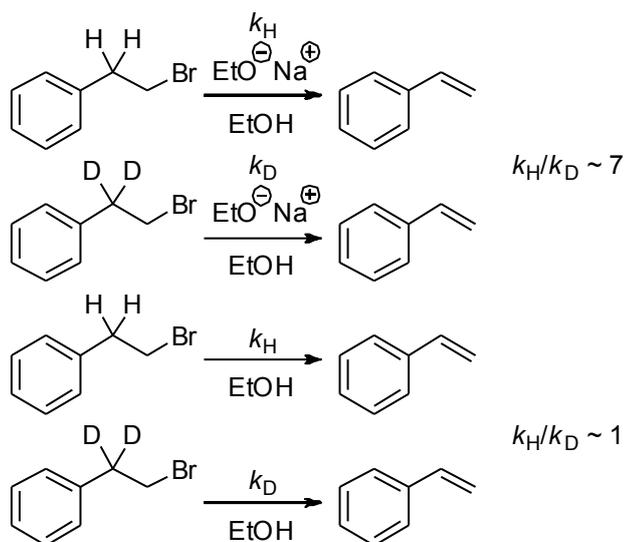
Zaitsev 則に従わない例

E2 脱離

E1 脱離

8.5. 重水素速度論的同位体効果 (deuterium kinetic isotope effect) (B 上 457-458)

→



8.6. 置換反応と脱離反応の競合：脱離基の結合した炭素の級数と反応条件で整理する (B 上 458-463)

第1級：

第2級：

第3級：

ベンジル・アリル：

8.6.1. Williamson エーテル合成：ハロゲン化アルキル+アルコキシドイオン→エーテル (B 上 463-465)

